

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

【市長あいさつ】

【意見交換】

- ①野生動物による農作物の被害対策について
- ②市職員は市民にあいさつを励行するなど、親しみやすくすべき
- ③市の事業も事業仕分けをしてムダを省くべき
- ④市職員の給与について
- ⑤小中学校の水道料金の徴収方法について
- ⑥長期休暇中の市職員について
- ⑦市役所で手続きをする際の職員の対応について
- ⑧競馬場跡地にデータセンターができた場合の雇用について
- ⑨雨紛中学校の後利用について
- ⑩町内会の加入について
- ⑪道立高等養護学校の誘致について
- ⑫自給自足の促進について
- ⑬平成大橋の拡幅について
- ⑭開村 120 周年のイベントについて

【市長終わりのあいさつ】

第 46 回目となる今回は、市内の神居雨紛地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

25 人の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成 21 年 12 月 3 日(木) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
場所	旭川市農業センター ホール（神居町雨紛）
出席者	・西川市長 ・市民(25 人)

対話の内容

参加者から寄せられた意見や提言・要望と市長のあいさつ・コメント等、対話集会の内容を要約したものを掲載します。

※参加者はアルファベットで表しています。
同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

【市長あいさつ】

皆さん、こんにちは。

12 月に入り大分寒くなってきましたが、今日は悪路の中この農業センターに地域の皆さま方を中心にお集まりをいただきましてどうもありがとうございます。

前回、昨年と同じ時期にお邪魔して、ちょうど 1 年ぶりにまたこの会場でこのような機会を持たせていただきました。時期がちょうど農作業が終わり一段落する時期ということで、地域の皆さんから、この時期に開催してほしいというご要望をいただいておりますので、この時期に開催させていただきます。今日はこれから限られた時間ですがいろいろなご意見をいただければと思います。

こちらの地域は農業地域でございまして、早い時期から稲作を中心にして発展をしてきた地域でもございます。私もこれまでいろいろな団体の皆さん、またいろいろな地域の皆さんとの対話

を重視して、市政に少しでも反映をさせていきたいという思いで集会を開催をしています。団体の皆さんと19回、また各市内地域の方々と26回と計45回の対話集会をこれまで進めてきていますが、いろいろなご意見やご提言をいただいております、非常に貴重な機会をつくらせていただいております。

今日の開催場所であります農業センターについては、農業者の皆さんのいろいろな活動を支援させていただきたいということでありまして、このトルコキキョウは、農業センターでつくった今年が一番最後の物だということで、すばらしくきれいな花を飾らせていただいております。こうした花もここでつくっているということを、皆さんにご紹介も兼ねてここに置かせていただいております

また、皆さんには雨紛囃子を地元の中川市議会議員さん中心にやっていただいておりますが、いろいろな地域のお祭りなどにも出ていただいております、本当にこの場をお借りして改めて感謝を申し上げますと思います。

この地域についてはいくつかの懸案事項がございます。まず旭川競馬場の跡地については、現在解体を進めており、春頃には更地になる予定ですが、この跡地利用等については、現在まだ決まっております。上川生産連の所有地ということになっておりますが、先日私どもも、企業誘致の関係で



東京の方でセミナーを開催をしたのですが、データセンターといういろいろなデータを集積する大規模な施設で、全国のさまざまな情報がそこにストックされ、そこを中心にしてまた利用者のところに配送されるというような施設が全国にいくつかありまして、私どもの地域もこのデータセンターを誘致をしていく上で、優位な点がいっぱいあるということでお話しをさせていただきました。誘致をするのは簡単なことではないですが、先日、東京のデータセンターの企業の皆さんも旭川に来ていただいて、この競馬場の跡地と東旭川の工業団地、また緑が丘のリサーチパークを見ていただいたところでございます。私どもの地域は東京から離れているという事がありまして、東京の方の旭川への認識がまだまだ十分ではありませんので、いろいろところで旭川を知ってもらおうということが大変重要と考えております。データセンターというのは、中にコンピューターがたくさんあり、しかも大型のものがあるものですから、大変な熱を発生します。これを冷却しなければいけないということで、東京の方では冷房をかけて電気代が大変掛かっているようなので、私どもの地域に、もしデータセンターができれば夏場も非常に冷涼ですし、冬場も寒いということで、電気代を考えた時に非常に優位性があるという話をさせていただいております。また、地震がない旭川ですので、データセンターが壊れて、すべての情報がなくなってしまうといった心配がないということも、私どもの地域の利点として是非、将来的に事業拡張の際には考えて下さいというお話しもさせていただいております。

もう1点は雨紛中学校についてですが、こちらについても先日、打ち合わせをさせていただいたと聞いております。後利用については、まだ決まっておりますが、今後、皆さんといろいろご相談をしながら、地域の方々に親んでもらえるような施設として再生をしていきたいと考えておりますので、いろいろとお力添えをいただきたいと思いますと考えております。

その他、地域においてもいろいろな課題があるかと思いますが、これまでの対話集会の中でいただいたご意見の市政への反映状況を簡単にご紹介をさせていただきたいと思っております。この地域では関係ないかもしれませんが、アパート、マンションなどのごみの排出状況が非常に悪いということで、新しいアパート建設時にはごみステーションを設置しなければいけないという新しい要綱を作らせていただきまして、環境部のもとで指導をさせていただいております。

また、第二庁舎に発達障害のあるお子さんが通っている「ひまわり」という子ども通園センターがあるのですが、ここに併設して託児所を設けさせていただいたり、町内会加入促進のためのいろいろな取組などを町内会、市民委員会の皆さんと一緒にこれまで進めてきていただいております。町内会に関しては全市的にも非常に加入率が低下しております、一番いい時と比べて10パーセント以上、加入率が低下しているという状況です。旭川の地域全体の

力を上げていくために、1つの大きな地縁団体である町内会という存在は、これからも引き続き重要な役割を担っていくものと思っております。特にこれからは超高齢社会と言われておりまして、その中で万が一災害、火事等が起こった時にみんなで助け合ういろいろなつながりというのをつくる上で、基礎はまず家族ですが、地縁としてやはり町内という単位が非常に大切であると考えているところでございます。

そのほか、市内にいくつかパークゴルフ場がありますが、末広地域の秋月橋の下流の所にありますパークゴルフ場については、地域の皆さんに管理の一部を委託させてもらいまして、芝の整備など行ってもらっております。

そのほか、道立の高等養護学校の誘致について先日、期成会を設立しました。私が市長ということでこの会長になっておりますが、障害のあるお子さんが中等部を卒業してからの高等養護学校が旭川市内になくて、美深や雨竜、小平町に寄宿舎生活をしている状況です。旭川から非常に離れた所にもかかわらず、通っている子は旭川の子どもさんが多いので、高等養護学校を旭川市内につくってもらいたいと国や道に対して要望をしていきたいと考えております。

これまでの取組についていくつか紹介をさせていただきましたが、今日はいろいろとまた、お話を聞かせていただければと考えております。

それから、1年前にお邪魔した時に雨紛中学校閉校後の避難所についての話がございましたが、今後どのように活用されていくかはまだ決定していませんが、いずれにしてもここは、引き続き避難所として利用していただけるよう考えております。

また、この機会に皆さんにお知らせをさせていただきたいのですが、来年は旭川の開村120年に当たる年です。“食と農”というテーマで来年の秋の収穫の時期に、大きなイベントを買物公園、平和通りなど中心街で開催したいと考えております。そのイベントでは“お米”をひとつのテーマに考えておりまして、今年から市場にも出てきておりますが、一番おいしいと言われている「ゆめぴりか」をはじめ、最近のすばらしい北海道産米もそこでPRさせていただきたいと思っておりますし、また、今から120年前につくっていた昔のお米を、いろいろとお願いをしてその種を確保して、どれくらい来年の秋にできるかわかりませんが、市民の皆さんに食べていただいて、今のお米と120年前のお米を食べ比べていただけるような企画も考えていきたいと思っております。

また、海外のお付き合いのある都市に海外の米を使った料理なども紹介をさせていただいたり、また、旭川だけでなく道北の皆さんにも、このイベントに参加していただきたいと考えておりまして、海産物の取れる留萌や稚内、オホーツクの皆さんにも、この機会に旭川に来ていただいて、海産物などをPRしてもらいたいと考えております。これから、私どもの地域はますますこの農業、食産業が大変重要になってくると思っております、この120年というイベントをひとつのきっかけにしまして、私どもの地域の産業がこれから大きく発展していく一歩となるようにしていきたいと思っております。

雨紛の皆さんにもまた、いろいろとご相談をさせていただくこともあるかと思いますが、どうぞその時にはお力添えをいただきたいと思っておりますので、この機会で大変恐縮ですが、お話をさせていただきたいと思っております。

また、国の方も夏の選挙で政権交代しまして、いろいろな制度が大きく変わろうとしております。その中で進めている一つに循環型社会、環境を守っていくために、二酸化炭素を25パーセント削減をしていくという総理の話もございましたが、私どもの地域でもこれから、いろいろ取組を進めていかなければなりません。例えば、太陽電池パネルなどで、ポータルを普及させていくことで、石油を使わなくていい社会、また、自動車も今はハイブリット車がどんどん出てきておりますが、おそらく近いうちに電気自動車や、燃料電池車などにどんどんと変わっていくのだろうと予想をしています。

また一方では、超高齢社会ということで、お年寄りの方がこれから更に増えていきます。旭川は今65歳以上の方が全人口の25パーセントですが、数年後には30パーセントを超えるだろうと予想され、今のままの少子化傾向が続くと、20年後には日本国民の50パーセント近くの方が65歳という国になるわけです。そうした中でどうやってこの社会をしっかりと守っていくかが今、私どもの次の世代に課せられた重要な役割になっておりまして、今までのような経済一辺倒でお金をたくさん儲けて、贅沢な暮らしをしていくというような価値観ではおそらく日本

は立ち行かなくなっていく。何よりこれからは、例えばいろいろな家族との交流、地域との交流、またいろいろな部分で心の豊かさというところに人生や生活の幸せを見出していきような社会に転換されていくような気がします。そうした中で、特にこの旭川も含めた北海道という土地は非常に住みやすい地域だと自信を持っております。東京は今、日本中の富が集中しておりますが、東京もこれから大変なスピードで高齢社会になっていく中で、北海道や地方から出て行った人たちがまた地方に回帰するという流れが加速されていくのではないかなと思います。そうした時に私どもも、地域づくりの大きな柱として対策や政策をこれから真剣に考えていかなければいけない時代に入ってきていると思っております。

また一方では、子どもの数が増えてくように国もいろいろと新しい政策を打ち出しておりますけども、日本は1人の女性が生涯に産む子どもの数が最近では平均1.2人から1.3人という数になっております。私の親や祖父母の世代は、兄弟7人や10人というのが普通の時代であったものですから、その当時と今とでは当然変わっているのですが、先進国と呼ばれている国々の中でも、この数字が2人以上の国というのも、実は現在でもたくさんあるわけで、そういう国は何が違うのかなといういろいろ私も考えたりしてるのですが、例えばフランスなどは、女性の方が一生に産む子どもの数は、2人を超えております。フランスはやはり社会制度がしっかりしております。後藤久美子という女優さんが、結婚してないが、子どもを産んで育てて一緒に暮らしている。例え離婚をしても女性がちゃんと1人で子どもを育てていくことができます。日本のように子どもができて、子育てに入ると女性は会社を辞めなくてはならない、辞めさせられるということが民間ではそういったことも多々ありますけども、フランスだとそういったことが無いから安心して、子どもを産んで育てて、また、子育てが終わったら元の会社に復帰できるというそういったこともそうですし、年金も医療制度も夫婦単位でなく、全部個人個人になっているんですよ。そんなことが少し日本とは違うのかなと思いますし、いろいろな部分で見習いながら、そういった子育てのしやすい社会を作っていくかといけな思っております。もちろん結婚しないで子どもを育てるのはいいと言っている訳ではありませんし、離婚を勧めている訳でもありませんが、いろいろな部分で子育てしやすい環境づくりということを勉強していかなければと考えております。

また、こちらはちょうど農村地帯でありますので、農業の後継者の問題についてもこれから大変重要な問題になってまいります。それぞれ皆さんの息子さんや娘さんが継いでいただければそれに越したことはないですが、なかなかそういった状況にないということもあります。これは所得の問題、不安定さ、大変さ、いろいろなことが関係してるのかと思っておりますが、なんとかこの豊かな農業、農村地帯を守っていかなければいけないと思っておりますので、農業政策において、行政や市としてできることに限界はありますが、新年度もいろいろとまた新しい制度を考えて応援をさせていただきたいと考えております。これから北海道の農業は、必ず良くなっていくと思っておりますので、どうか農家の皆さま方には、引き続き地域農業、日本の農業の発展のためにお力添えをいただければと思います。

冒頭に、私から少しお話をさせていただきましたが、この後、またいろいろと皆さんからもお話をいただいて意見交換をできればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【意見交換】

①野生動物による農作物の被害対策について

参加者A

5、6年前からシカが田んぼに現れるようになり、田んぼを踏み荒らしたり、稲や露地野菜が食べられる被害を受けています。猟友会の方などが積極的に駆除をしてくれていますが、追いついていないのが現状で、生産している私たちとしては死活問題です。自分たちで柵をつくったりするにも多額な費用がかかりますので、どうしたらいいものか頭を抱えています。

また、アライグマも、ものすごい勢いで増えているようです。そういった野生動物の被害対策をお願いしたいと思います。

市長

シカの被害については、市内の他の地域でも同じような話を最近よくお聞きしております。北海道全体で大変な数になっているという事で、猟友会の皆さんにお話しさせていただいております。また他にもいろいろできることを考えていかななくてはと思っております。アライグマについても毎年罠を仕掛けているところですが、あまり被害が大きくなってくると、もう少し抜本的な対策を国にも求めていかなければいけないと思っており、深刻な課題として受け止めています。

②市職員は市民にあいさつを励行するなど、親しみやすくすべき

参加者B

市役所に行くと感じるのですが、訪れた市民に対して、市職員のあいさつがあまりないように感じます。そうしたことが、市職員が町内会に協力的でないなど、様々な場面で悪く言われてしまう原因の一つではないかと思えます。市民が市役所を訪れたら、市職員はちょっと会釈をしたり、「こんにちは」とあいさつするなど親しみやすくすべきです。

市長

市民の方にあいさつをしっかりするという事は、大変大事な事だと思います。きちんとしている人もいますが、にこやかにあいさつを交わし合うことができるように、私もいろいろとまた指導していきたいと思えます。

③市の事業も事業仕分けをしてムダを省くべき

参加者B

旭川市でも国のように事業仕分けを行ってはどうでしょうか。無駄なお金を使っているとはいわないですが、良い事も悪い事もすべてオープンにするという事が重要だと思います。

市長

国で行っている事業仕分けについては、無駄な事業などをなくすということで、非常に良い事だと思っています。市においてはもう無駄はほとんどないところまで絞ってきていますが、そのような中でも、少しでも何か無駄なものがないのか、無駄な事業がないのだろうかを頭を捻っております。今後は国の仕分けの状況や、また外部監査やいろいろな団体の皆さんからのご意見なども参考にさせていただきながら、引き続き取り組んでいくつもりです。

④市職員の給与について

参加者B

市職員の給与が、一般職員で30万、40万円という額は果たして適正な金額かどうか教えていただきたいと思えます。

市長

市職員の給与については、今回、国の人事院勧告の中で、全国的に給与がぐっと下げられたという事で、独自削減をしていた部分を2%還元したという形ではありますが、平成22年度も、総額としては今年よりも下がるような形になっています。しかし、このような大変厳しい市内の経済状況の中、市職員も含めて、公務員の給与が市内では高いというのが現実だと思いますし、もっと職員の給与も下げるべきだという声があるのも聞いております。しかし、いきなり来年から給与を3分の2にする事はなかなかできないわけでありまして、やはり市職員がどうやって市民の皆さんに仕事で返していくかという事が大事だと思っております。いずれにしても、公務員の給与体系においては今後、民間がどういう動きになっていくかわかりませんが、それに合わせて適正な水準にしていくという事は、引き続き検討されていくべきものと考えております。

⑤小中学校の水道料金の徴収方法について

参加者C

以前、水道局の元職員が市内の小中学校の水道料金をわざわざ回収に歩いているという話

しを聞いた覚えがありますが、もし本当であれば、とても無駄な事をすると思います。このことについて、どういふお考えか教えてください。

市長

水道料金の徴収方法については、戻ってから調べてみます。もしそういう形でやっているのであれば、改善していきたいと思います。

⑥長期休暇中の市職員について

参加者C

市職員の中に長期間休暇中の方が何人かいますが、このことについてどう思っているか教えてください。

市長

長期休暇をとっている職員については、基本的には病気などの理由で長期間休んでいる人ですので、一日も早く良くなって復帰してもらいたいと思っています。また長期休暇まではいかないまでも、精神的な部分で病んでしまい、休みがちになったりという職員もごく一部おります。全国的に最近では精神疾患の人が増えてきており、大手の民間企業でも増えてきているという話しを聞いています。そうした中、私どもも正当な理由や回復の見込みがないにもかかわらず、いつまでも職員の立場として居続けるという事が果たしてどうなのかという気持ちを持っています。公務員の場合には分限という制度があり、どうしても治らない部分については無理ですが、本人の意思によって変えることができるにもかかわらず、業務上いろいろな怠慢がある場合には、分限処分という形で、懲戒免職もできるように昨年からのところでは、それに該当している職員は現在おりませんが、まずは、そういう人が出てこないような職場環境が大変重要だと思っています。何か少し異変があれば、同僚や上司がしっかりと見て、悪くならないうちに皆で助けていくという事が組織として大事だと思っています。

⑦市役所で手続きをする際の職員の対応について

参加者D

市に手続きに行ったときの市職員の対応についてですが、単に手続きだけで終わるのではなく、こういう手続きをすればこうなりますと、十分に説明するなど市民の立場になって親切な対応をお願いしたいと思います。

市長

国の制度もたくさん変わってますので、市民の皆さんがそれを全て理解して手続きすることは不可能ですので、窓口になってる地方自治体がしっかりといろいろな工夫をして、情報提供をしなければいけないと思っています。

⑧競馬場跡地にデータセンターができた場合の雇用について

参加者D

競馬場の跡地に仮にデータセンターができた場合には、たくさんの方が雇用されるのでしょうか。働く場所がなければ、人口が減っていきまじ、若い人も出て行ってしまいますので、若者たちがそこで働けるという事になればいいなと思っています。学校や競馬場が無くなり、本当にこの地区は寂しくなりましたので、早くデータセンターができて、たくさんの方を雇用していただきたいと思っています。

市長

データセンターがこちらにできるかどうかはまだ全く分からない状況です。

また、データセンター自体はそれほどたくさんの雇用は生まれません。必要なのは管理する人員ぐらいで、どこも少人数という状況ですから、雇用の部分ではあまりインパクトはないと思うのですが、それ以外の部分での効果はあると思います。しかし、地元での雇用をどうつく

ていくかというのは、これも真剣に考えなければいけない問題だと思っておりますので、いろいろとまた頑張っていきたいと思っております。

⑨雨粉中学校の後利用について

参加者E

雨粉中学校の後利用について、公募する場合には、公募条件について早めに地域住民に知らせますということでしたが、現在の進捗状況やいつ頃までに公募するのかなど教えて下さい。

市長

雨粉中学校の後利用については、市の施設として使えないかだろうか、地元の方に何かの形で使ってもらえないかかなど、いろいろと模索してきましたが、いい答えが出なかったという事で、公募作業に入っていくということとなりました。ですから、どういう施設にしていかなどについてこれからのお話になってきます。ただ、1日も早くとは思っていますので、これについては、また地元の市民委員会の関係の皆さんとも相談させていただきながら、早急に進めていきたいと思っております。

参加者F

昨日、教育委員会から旭川雨粉中学校校舎跡地利用募集要項が市民委員会あてに届きました。今それを町内会長に配っているところです。これを見ていただければ募集要項の詳細がわかると思いますので、よろしくお願ひします。

⑩町内会の加入について

参加者G

町内会の加入率が非常に悪く、加入するようお願いしていますが、なかなか入ってくれません。雨粉地区でも5%くらいの人が入っていないのですが、ごみステーションの問題などがありますので、市の方から町内会に入っていない人に、加入してくださいという文書を配布してはどうでしょうか。

市長

転入や転出、住民票の変更等で市役所に来られた方には、町内会活動のPRチラシをお渡しするなどしているところですが、それ以外の方で町内会に加入していないという方については、私どもも誰が加入していて誰が加入していないかというデータがないものですから、そういった方々まではアプローチできない状況です。

市民生活部長

現在、広報誌「あさひばし」を町内会に入っていない方も含めて全世帯に配布していますが、その広報誌の中に町内会についての記事を掲載したりしております。回覧板等ですと、見ない方もおりますし、また町内会に入っていない方には回ってきません。やはり広報誌をご覧いただき、町内会への関心を持っていただくしかないのかなと思っております。

市長

おそらく町内会に入らない方に、紙を配布してもあまり効果がないと思います。やはり直接話をして、理解いただくことが一番だと思います。本当に町内の役員の皆さんが一番大変ご苦労されていることだと思いますが、市としてもできることは精一杯やっていきたいと思ひます。

⑪道立高等養護学校の誘致について

参加者B

道立高等養護学校の誘致を進めてるとのことですが、どこかに誘致場所を確保してあるのでしょうか。先ほど雨粉中学校の跡地利用の話が出たので、そこを活用してはどうかと思ひました。

市長

高等養護学校をどこに誘致したいと考えているかは、まだ具体的に言えない段階ですが、既存の学校施設などを手直しをして、ここにありますと道に話をしていくのが一番いいと思っています。雨紛中学校の場合は、高等養護学校の建物としては少し小さいかもしれませんが、学校の跡地ということはひとつ大きな候補になるだろうと思います。

⑫自給自足の促進について

参加者B

これから日本はできるだけ自給自足を高めるようにしていくべきだと思います。日本でつくったものを日本で消費する政策をもっと進めて行くべきだと思います。自給自足を高めていくことが、農家の人にとっても市民の健康のためにとっても好ましいことと思います。

市長

自給自足についてですが、今、国が食料自給率を上げるための取組を行っているところで。しかしながら、諸外国やWTO(世界貿易機関)などの問題もあり、なかなか進まない状況だと思います。国内でつくられた自動車や機械製品などを海外に売る代わりに、海外から食べ物を買いなさいと戦後一貫してこのようなことになってるのかもしれませんが、一步一步前進してもらえたらと思うしております。

⑬平成大橋の拡幅について

参加者H

雨紛から神楽につながる平成大橋についてですが、開通した当時は将来は4車線になるという話もありました。駅周辺開発で駅裏の橋が開通になったと同時に、平成大橋も広げていただければ交通の便も良くなるし、雨紛地域も発展していくのではないかと思います。

市長

平成大橋の拡幅、複車線化については、地元の皆さんからずっと要望をいただいております。平成大橋は環状線まで市道であり、道道昇格要望を含め、整備につきましては道との協議も必要になります。道もこのままだと数年後には早期財政健全化団体となるのではないかと思います。財政状況でありますので、しばらく時間がかかるかもしれませんが、地域から要望としていただいておりますので、引き続き頑張っていきたいと思っています。

⑭開村 120 周年のイベントについて

参加者I

来年の開村 120 周年のイベントは「食」と「農」がテーマということですが、市民全体を巻き込むようなイベントを考えたらいかがでしょうか。このイベントを通して、旭川は元気だと観光客に感じてほしいと思っていますので、その開催内容について市民の意見などを吸い上げる方法を考えていただきたいと思っています。

市長

開村 120 周年のイベントについては、これから検討を進めていく中で、市民の皆さんにも一緒に入っていただいて、協議会、委員会的なものをスタートさせるように担当部署に話をしています。是非、多くの方に参加していただけるようなイベントにしていきたいと思っています。

【市長終わりのあいさつ】

今日はいろいろと貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。競馬場跡地の問題、また雨紛中学校の問題、これらにつきましては、引き続き地元の皆さんとしっかりと意見交換をさせていただきながら、特に雨紛中学校については実際建物があるわけですから、ここをどう活用していくかというのは大変重要だという認識を持って取り組んでいきたいと考えており

ます。

師走に入り、もう今年も残すところ1か月を切りました。ちょっとまだ気が早いかもしれませんが、皆さんどうぞ良いお年をお迎えいただければと思っております。

新型インフルエンザの方も、今日保健所の所長と話をしていたのですが、旭川に関してはちょっと落ち着いたということになっております。第2波がまた来るかもしれませんが、寒くなってきますので体調を崩されませんよう、どうぞ気をつけてお過ごしいただきたいと思います。

簡単ですが、終わりにあたっての御礼のごあいさつにさせていただきます。どうも今日はありがとうございました。